

十神山



# 会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

☎692-0064  
島根県安来市古川町534  
TEL 0854-28-9988  
FAX 0854-28-9393  
http://www.y-hozon.com/  
E-mail:admin@y-hozon.com

11月13日に開催された安来節保存会代議員会において、平成30年度の上位昇格者と表彰者が報告されました。  
今回、准名人に5名、大師範に14名の方が昇格されました。おめでとうございます。  
来年の1月10日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。

## 上位昇格者

### 准名人(五名)

高橋 栄子  
唄の部(本部道場)



花木 三重子  
絃の部(浜田中央)



二代目 松尾 英興  
鼓の部(松江)



### 大師範(十四名)

唄 池田佐都美(本部道場)  
踊 一宇川耕士(本部道場)  
銭太鼓 今岡淑子(本部道場)  
唄 陶山朋之(加茂)  
唄 吉川静樹(神門)  
絃 出雲勝之助(大東)  
唄 出雲美枝乃丞(益田)

踊 家原弘雄(米子中)  
絃 堀口邦江(宮島)  
唄 越智咲子(伊予道後)  
唄 徳本良子(山口西京)  
銭太鼓 森脇忍(大江戸)  
踊 榎正男(東京)  
踊 清野勝利(東北)

## 会員表彰者

(三十六名)

高橋 定雄(本部道場)  
一宇川てい子(本部道場)  
松崎 祥江(本部道場)  
下道 みち子(飯南)  
服部 美代子(石見)  
錦 織みどり(加茂)  
原 一明(神門)  
中島 義雄(湖陵)  
森山 清子(湖陵)  
青木 健(宍道)  
飯塚 傑(宍道)  
箱上 マキ(浜田中央)  
岡 大輔(斐川)  
長岡 春枝(平田)  
石川 紀美江(益田)  
井本 スミエ(益田)  
扇 正治(松江)  
曾田 テイ子(松江)  
前田 住枝(東伯)  
水田 増子(鳥取)  
富田 輝男(米子)  
中須賀 尚子(江田島能美)  
矢口 裕子(広島)  
藤井 活然(広島)  
渡部 誠子(広島)  
草野 晃(広島)  
川上 和昭(岡山)  
蔵之前 宏子(岡山)  
安田 宗三郎(岡山)  
廣田 安秋(関西)  
川上 久美子(神戸)  
原田 キミ(大江戸)  
玉川 隆正(大根)  
後藤 省三(大根)  
平松 久子(東京)  
松本文子(東京)

## 新役員決定

任期 平成29年10月1日〜平成31年9月30日

このたびの役員改選に伴い、新役員が決定しました。安来節がますます普及・発展するよう新役員の方々のご尽力に期待し、会員の皆様のご協力をお願いします。

### 会長

近藤 宏樹  
(市長)

### 監事

長島 勲  
(本部道場)

### 副会長

森脇 光成  
(副市長)

### 資格審査員

三代目 砂川 清  
(米子)

### 専務理事

内田 修次  
(市議会議員)

### 常務理事

横田 一道  
(市政推進部部長)

### 理事

樋野 智之  
葉田 茂美  
(市議会議員)

### 指導部員

五代目 佐々木 偉市  
四代目 渡部 孝夫  
須田 茂善  
榎野 暉夫  
石岡 邦宏  
石川 弘一

### 指導部長

四代目 渡部 弘充  
砂川 清  
(本部道場)

出雲 勝之助  
(出雲ブロック)

福田 辰雄  
(石見ブロック)

高次 春雄  
(広島ブロック)

野坂 亮若  
(鳥取岡山ブロック)

棚橋 保  
(関東ブロック)

安来節保存会創立100周年記念  
安来市無形民俗文化財指定記念

安来節・基礎テキスト

ビッグ付録  
「安来節あんこ特集」

絶賛発売中!

唄われて100年の魅力!  
安来節保存会200年へのテーマ

価格 1,000円

出雲街道民謡交流会編集発行  
090-2809-1233(渡部孝夫)

“唄われて100年の魅力”に続く、安来節の本質に迫る。

よみがえる  
安来節



安来節ファン 必見の内容

迫力のある安来節、それは基礎の力。本書は基礎技術向上に役立つ本。

芸のため苦労した人たち、真剣勝負の安来節。民謡低迷期、安来節再興に必要な内容。

価格 1,800円 発売 平成29年6月1日  
発行 出雲街道民謡交流会

《お問い合わせ》

渡部孝夫 090-2809-1233  
東京支部長 棚橋 保 080-5495-3685  
安来節保存会 0854-28-9988  
本部道場総務部長 安達雅宏 090-2297-8729

### 浅草寺安来節公演に際して



安来節保存会 会長 近藤 宏樹

この度、東京浅草・浅草寺において、浅草寺のご理解のもと安来節公演をさせていただいたことは、大変名誉なことであり、感謝申し上げます。

浅草は、安来節にとりまして明治から大正にかけて爆発的な人気を博し、「安来節第二のふるさと」であります。この縁がある場所、仲見世でのお練り、五重塔での二回の安来節公演、また外国観光客の方によるどのような体験などを通じて、世界各国及び全国各地の観光客の多くの方々にご覧いただき、安来節をPRすることが出来ました。

この浅草寺での公演を契機とし、さらに正調安来節が全国また世界の皆様に愛される民謡となるよう最善の努力をする所存でございます。

ここに、島根県及びしまね文化フアンド、安来市、安来市観光協会並びに関係各位の皆様のご理解ご協力により盛会裏に無事開催できましたことを衷心より感謝申し上げ、御礼の言葉といたします。

### 「東京浅草・浅草寺安来節奉納公演」



家元四代目 渡部 お糸

#### 雷門く本堂のお練りにて

チョンチョン：拍子木の音を合図に「皆様おはようございます。お集まりの皆様方に一言ご挨拶申し上げます。私達は、島根県安来市から参りました安来節保存会一行でございます。今日は、浅草・浅草寺にお



きまして安来節家元四代目渡部お糸一行によります伝統あるお練りをさせて頂こう事になりました。この雷門から仲見世通りを経て、本堂までを「安来節道中」として執り行わせて頂きます。

「ただいまより、出発っつ」という声を合図に三味線と鼓の演奏にのせて、出発致しました。空は雲一つない秋晴れの十月十日、三メートル以上ある横断幕を先頭に、高張提灯と共に緊張した面持ちで歩を進めました。沿道からは、「おかえり安来節」「待ってました」と大勢の皆様温かい声援を頂き、一層身が引き締まる思いでした。

#### ◆本堂での法要にて

この度の浅草公演は、安来が誇る「清水寺」で七〇〇年の時を経て現れた秘神「摩多羅神」の奉納公演を縁に実現致しました。

浅草寺本堂での法要は、厳肅に執り行われ、保存会会長の近藤市長はじめ約三十名の会員が手を合わせ、「安来節のさらなる発展」をお祈りしました。浅草寺の十名の高僧の読経が本堂に響き渡り、百余年に渡って唄い継がれた正調安来節、初代渡部お糸様はじめ、先人の皆様にも喜んで頂けた事と存じます。

#### ◆五重塔前にて

浅草寺の奉納公演は、境内に未だ輝く五重塔の舞台で観音様に向けて公演致しました。この舞台は、歌舞



伎の襲名披露公演の前に行われる晴れの舞台でもあります。公演は、午前と午後の二回公演で、唄と踊りも兼ね、一時間、精一杯披露させて頂きました。演目の一つのように二回公演では、千年に一度という東日本大震災にもめげずに安来節普及に尽力され、東北支部を立ち上げられた支部長と、お弟子さんの息の合った一人踊りで、浅草寺から東北にエールを送って頂きました。



今回の公演では、海外からの観光客にも楽しんでいただくと思ひ、英語での司会も取り入れ、好評でした。また、どうも素晴らしい体験では予想以上の参加希望者があり、大変盛り上がりしました。

#### ◆公演を終えて

十月十一日(水)午後二時頃、一本の電話が入りました。それは浅草寺から「今日の東京の空は曇り空です。昨日は大変良い天気、観音様も大変喜んでおられました。立派な芸を見せて頂き、すごいと思いました」と、その言葉を聞き、この度の公演が、皆様に喜んで頂けた事を大変嬉しく思いました。

また、この様な素晴らしい奉納公演が成功裏に終りました事は、ひとえに浅草寺の皆様はじめ関係各位の御理解と御協力の賜物と深く感謝申し上げます。

安来節保存会が創設され、百余年の歴史の中でこのような公演をさせて頂きました事、大変光栄に存じます。また、この度の浅草寺奉納公演は、安来節保存会のこれから先の百年に向けての輝かしい第一歩になった事と存じます。

観音様に見守られながら安来節が益々発展して行く事を願ってやみません。

## 新生安来市の名誉市民(上)

並 河 健 蔵

平成十六年(二〇〇四)十月に、旧安来市・広瀬町・伯太町の一市二町による新設合併により誕生した新生安来市。島根県東部に位置し、西は松江市、東は鳥取県米子市に隣接する。豊かな自然と歴史、文化に恵まれ、「ハガネと安来節」の町として広く知られている。安来市は、平成二十六年十月、新生安来市の十周年を記念して、市本庁舎(安来庁舎)と市民会館(通称アルテピア)さらに給食センターを建設する三大事業を推進してきた。あわせて名誉市民の制度を設けた。

安来市名誉市民とは、公共福祉の増進、産業、文化の進展、自治の発展に貢献し、その功績が卓絶で、市民の尊敬の対象となる人物に贈る称号である。この度の十周年記念事業に当たり、市民の代表で構成する選考審議会が審議を重ね、時をこえて輝きを放つ偉大な功績を遺した五人の方々を選定した。米原雲海・伊達源一郎・初代渡部お糸・河井寛次郎・櫻内義雄の各氏である。(注・生年月日の順による)。そこで今回は、初代渡部お糸氏と河井寛次郎氏の二人の業績を紹介する。

### 初代渡部お糸氏 (本名・渡部イト)



(明治九年十一月六日生、昭和二十九年三月二十七日没) 明治九年安来町に生まれ、幼少の頃から安来節を習い覚える。成長するにつれて天性ともいふべき美声に一段と磨きがかかり、お糸が唄う安来節は人々を魅了し、その名前は巷に知れ渡る。

大正期に入り、各地での催しに出演し、ますますその名声を高めるとともにレコードの吹き込みも行い、安来節を全国に紹介する。そしてお糸を中心とする安来節一行は東京での一流寄席に出演、あるいは関西方面の寄席の世界にも進出巡業し、大盛況をあげるようになった。これにより東京、大阪には安来節の専門の舞台が生まれるなど、その唄と踊りは日本の民謡界において大きな地位を確立し、出雲に安来節ありと、全国に知らしめた。

また巡業一座とともに各地を回り、安来節を広めると共に、当時の台湾、朝鮮、満州にも巡業の足をのばすなど、国内外において活躍し、一地方の民謡を格調高い日本を代表する民謡として位置づける多大な貢献をした。

### 河井寛次郎氏



(明治二十三年八月二十四日生、昭和四十一年十一月十八日没) 明治二十三年、安来町に生まれ、島根県立第一中学校を卒業すると陶芸家を志し、東京高等工業学校に入学。室業科学に関する基礎を学んだ後、京都市陶磁器試験場の技手を経て独立し、陶芸創作活動への道を歩む。

大正九年、京都五条坂に「鐘溪窯」を開き、さらに研鑽を重ね、中国陶磁器等に関する新しい知見を加えて、青磁や辰砂、天目をはじめめとする多彩で、しかも高い技術を駆使した作品を次々と発表し、作家としての地歩を固めた。

その後、李朝陶磁に見られるような無名の生活陶器に強く心ひかれ、志を共にする仲間と民芸運動を展開、従来の伝統様式を脱し、技巧を抑えた自然なつくりによって民芸の実践を試み「用と美」の調和をはかった独自の陶芸を完成させた。その後、民芸にとらわれない自由な創作に入り、斬新で明るく、変化に富んだ作品を次々と世に送り出した。

この間、数えきれないほどの作品展を開催し、多くの人に感銘を与えた。特に昭和十二年のバリ万国博覧会、昭和二十二年のミラノ・トリエンナーレ展では、グランプリを受賞するなど、世界的にもその名声を馳せた。

一方、人間の表情を巧みに表した木彫作品など、その多彩な造形は多くの人々を魅了した。また多くの詩句や広範囲にわたる著書も多く残している。河井寛次郎は陶芸家であると同時に詩人・エッセイスト・デザイナー・書家という多才かつ多彩な芸術家である。

※初代渡部お糸氏と河井寛次郎氏の二人は、旧安来市の名誉市民でもあった。

# 私と安来節



資格審査員  
石岡 邦宏  
(松山支部)

安来節を始め四十余年、これまで家族の理解、協力があって続ける事が出来たと思います。

きっかけは、今ではカラオケがありますが、当時は手拍子で唄ったり、踊ったりの業界の宴席で一芸回しの順番がきても披露する物がなく、何か身につけたいと思って、民謡の発表会でどうしようもない踊りを見て、これだと思い習い始めました。三味線は以前に少々長唄を習った事があったので、違和感なく取り組めました。当時はしっかりと指導者もなく、見よう見まねの活動でした。二代目安達順吉先生と富田徳之助先生の録音されたソノシートを聞いて、音取りをして覚えたりしました。初段の頃、二代目安達順吉先生の指導を受ける機会に恵まれた時、本場の音色、名人のすごさを実感しました。基本の大切さを教えて頂き、録音したテープを家に帰ってから、何度も聞き返して練習しました。上達するには音や間合いのリズムが身体に染み付く位、練習する事が大切だと思います。

近年、師範昇格審査が厳しくなってきたという声を聞く様になりましたが、特に厳しくなったとは思いません。師範昇格審査はコンクールのような上手下手を決めるものではなく、会員さんに基本をきちんと指導出来る先生としての技量があるか無いかを審査するものです。我々が挑戦した頃は我を忘れるほど必死で練習したものです。どよよとくいで挑戦する人は練習で畳が擦り切れたり、絃の人は糸で爪が切れ込んで出血したりと相当の努力をしたものです。また指導にあたる先生方も研修会で技を確認、修正して会員さんに基本をきちんと教え、練習を重ねれば多くのの方の昇格も夢ではないと思います。共に頑張って安来節を盛り上げて行きましょう。

## これからの安来節



指導部員  
原 淳文  
(北陽支部長)

指導部長を拝命してから一年が過ぎ、部員の皆さん方の協力を得て、指導部として

の役割、各支部の講習会、師範、大師範以上研修会等、協議を重ね、共通認識を持ちながら今日まで部会を進めて行く事が出来ました。今後どのようにならなければならないのか日々考えながらこれからの安来節を思うところ

安来節保存会創立一〇周年から六年が経ち、今日まで安来節を支えてこられた先人の皆様の苦勞を大切に、今後十年、五十年そしてその先に向けて伝統を守りながら、また時代に合わせて新たな伝統を作り上げて行く事に少しも役に立つようにと考えるところです。今日まで好きな安来節方にどれだけ感謝しながら、会員の皆様一同常に考えています。周りがあって初めて自分がある事、そして伝統文化である安来節の中で芸に対しての作法、考えを大切に思っております。



指導部員  
伊藤 芳男  
(宍道支部)

昭和三十六年、宍道町の若者二十名近くで「亀の子会」を立ち上げました。家業の人、勤めている人(十代、二十代)で、青年学級から青年教室と変わり、その後、宍道町青年団となりました。大きな声を出すことや気分がすっきりするといふ事で安来節の唄とどよよとくいで踊りを始めました。出雲市から疋田浅次郎先生に来て頂いたようにすくすくを習い、踊りの歩きはチャップコン、チャップコンでした。

昭和四十二年に安来節保存会に入会し、唄で一級を取得しました。四十七年に師範となり、翌年には斐川西小学校へ連日連夜三ヶ月間指導に行き、四十八年六月に斐川支部を立ち上げました。昭和四十二年には、松江城山の新人コンクールに出場し、二番でした。一番なられた若い方に練習は月にどの位されますかと尋ねるとそばにおられた方が「この方は二代目出雲愛之助先生の息子さん」と言われ、ビックリしました。そのご縁で愛之助先生とお会いでき、米子の河崎の道場へ足を運ぶようになり、どよよとくすくすといふ鼓を教えてくださいと申し込み、私と故人山本武宣(芸名・出雲友武)と太田清君の三人で週二、三回通いました。遊びと練習、半分半分でした。

昭和四十五年、青年団の郷土芸能の部で銭太鼓、男踊り、女踊りの総勢二十名で島根県大会で優勝し、東京の二木会館で発表し、奨励賞を頂きました。その時に習った銭太鼓を大事に温故知新、古きをたずねて

新しきを知る、姿、形を変えないで伝えていく、その一心です。指導して頂いた名人二代目出雲愛之助先生、佐々木小繁様、出雲友之助様(三代目出雲愛之助先生)に感謝の気持ちで一杯です。少年老いやすくら未ださめず、池塘草春の夢、振り返れば半世紀五十年経ちました。これからも日々精進し、安来節に貢献致します。今後とも皆様方の御指導、御鞭撻の程、よろしくお願い致します。



久光 哲朗  
(東北支部)

運と好期に恵まれ、六十八歳まで働いたので、その後の人生をどう過ごそうかと考えた時期があり、まずは地域の方々と交流を第一とし、次に好きな趣味を伸ばしたいと思ひ、仙台のサークル活動などで一応自己満足の日々を送っていました。そんな平穏な生活に突然予測も出来ないあの東日本大震災が一瞬にして生活のすべてを奪っていきながら「その後、南仙台に妻と仮住まいしながら「もめけの殻状態」暮らしが続いていきましたが、ある報道紙のカルチャー欄に安来節の案内を目にし、千載一遇のチャンスとばかりに申し込みました。

カルチャー初日は、どんな様子か内容なのか期待と不安の中、講師の清野先生の本場のどよよとくすくすの唄が披露されました。滑稽な容姿と踊りに笑いを通り抜け、グツと心が奪われた時を鮮明に思い出します。その後の練習で、ついでにいけるかどうか不安な日々でしたが、ある時、清野先生から「どよよとくすくすの唄はこれまでの自分を捨て一心に取り組む事が大切ですよ」との指導がありました。この言葉を心に刻みながら四年余り経過した今も歩き方や間の取り方もまだ習得できずにはありますが、少しずつでも上達しようと思ひ、共に練習に励んでいます。

昨年、安来節保存会東北支部の一員に加わった事が安来節に取り組み今後の大きな支えになっていきます。傘寿を迎えたこれからはまだまだやれる気持ちで地域の福祉やボランティア活動に生かして行きたいと思っています。

私が安来節を始めたのは二十一年前、初めて資格審査に臨んだのが、平成九年四月



神崎 京子  
(飯南支部)

もう民謡教室に入って十六年になります。



高橋 敏子  
(仁多支部)

八十五歳の夫は、第三の人生といひ、昨年「糸操り人形」による、安来節に挑戦しています。あちこちから会に呼んで頂き、歳を重ねても忙しい毎日で感謝・感謝です。



吉川 芳美  
(関東支部)



吉川 昭伸  
(関東支部)

何もわからなかったのですが、富田とみお先生に教えて頂き、また皆さんからも教えて頂いて今日も大きな声で唄ってみようかと、頑張ってみようかと唄い続けて来ました。声も悪くリズム感も良くない私ですが、私にとって難しい安来節を唄い続ける事は、ホケ防止にもなるんじゃないかと思うようになりました。家族はもうやめてもいいではないかと言いますが、何か安来節の魅力に今日も出てみようかと唄わせて頂いています。物分りが悪く、上達も遅いですが富田先生は丁寧に教えてくださり、感謝しております。

今年の優勝大会、熟年の部で優勝させて頂き、ありがとうございます。これまでご指導頂いた先生、一緒に稽古をして頂いた仲間、いつも理解してくれた今は亡き夫と安来節との出会いは、母がよく唄っていた安来節、子供心に「私もいつの日か唄える様になりたい」と思っていました。時は過ぎ、四十歳を過ぎた頃、友人に「安来節を習ってみたいか」と誘われ、稽古場に通うようになりました。最初は手拍子で皆様と一緒に合奏する事でした。三味線に合わせて唄う様になりました。なかなかテンポに合わせる事が出来ません。練習を重ねていくうちに唄える様になりました。昭和五十九年に初めて審査を受け、一級になりました。それから審査が楽しく、練習日が続いて遠い日々でした。昇格するにつれて、もっと良い唄、良い節回しが出て来る様になりました。気持ち先走りする日々、これでは師範はとて無理だと思ふ様になっていました。そんな時、二代目出雲愛之助先生を紹介して頂き、ご指導して頂く様になりました。稽古場には、師範の方もおられ、また初心者の方も一緒に踊りました。今までの様に唄うだけでなく、発声など基礎からと私は厳しく辛い日々でした。「がんばれば、がんばれ」と自分に言い聞かせ、その結果、平成三年に師範になる事が出来ました。その頃から三味線も始めていましたが、左手の指に障害が出た事で諦めていたのですが、愛之助先生に相談したところ、色々アドバイスを頂きながら稽古を重ねました。しかし思う様に指も動かさず、また悔しい思いもして、半分諦めていたのですが、何とか奮起しながら七十歳になるまでに一度は挑戦したい気持ちでした。時間を見つけては一生懸命に指を動かしたり、三味線の稽古を今まで以上に頑張っていました。その結果、平成二十五年に師範になる事が出来ました。長い道のりでした。それも指導して下さった先生をはじめ仲間の皆様のおかげです。何歳になっても挑戦する気持ちを忘れず歩んで行きたいと思ひます。今後とも御指導よろしくお願い致します。



後野 トモ子  
(浜田支部)

## 安来節との出会い

謝です。

支部情報

NHK朝ドラマ「わろてんか」撮影協力



田村 実 (関西支部長)

NHK朝ドラマ「わろてんか」が十月より始まっています。これは、吉本興業創設者の吉本せいさんを題材にしたドラマです。今年三月、保存会から「NHKより撮影協力の要請があった時には関西支部にも協力してほしい」と話を聞いておりました。吉本興業と安来節とは古くからの関係もあり、今回のドラマに安来節が登場するストーリーに

も助けました。八月初旬NHKより女踊りの出来る娘五名(二十歳前後)、観客エキストラ三十名、踊りの指導者、地方三名の要請がありました。関西支部でも女踊りの出来る若い女性は数少なく、十代(高校生)二名の他は、二十五歳〜四十歳となるため、安来市商工観光課に応援要請をしましたが、本部道場も同様で、しかも安来と大阪を何度も往復するのも大変なため、結局関西支部で五名の乙女組を結成する事となりました。関西乙女組の稽古をしつつ、ドラマの四人の女優さん達のお稽古が九月より始まり、まず今の女踊りを披露しましたが、ドラマのイメージとは違ってしまう、最近あまり踊られていない二番を踊ったところ、ようやくOKとなりました。しかし、若くて元気なはずだった娘達のイメージを踊りで表現するのは、なかなか難しく、皆様の知ってられる女踊りとは少々違った仕上がりになっていきます。俳優さん達の日程や時間に合わせるため、お稽古でしたので、急な要請やキャンセル、また連日の長時間練習のため、のどを痛めたり、腱鞘炎になったりと大変でしたが、四人の女優

さん達も根を上げる事なく一生懸命で感心しました。観客エキストラ二十八名は、大正十年頃の衣装や髪形にウキウキ、ワイワイ、非日常的な時間を満喫して十月二十五日に私達の撮影が終わり、疲れましたが皆満足気な顔、顔、顔。この間、安来市から市役所商工観光課の方々や保存会専務理事他の方々の皆様より激励応援をいただき、心より感謝いたしております。四人の女優さん達から「今後安来市と安来節を応援します」とのコメントも戴きました。放映は十二月二十五日〜平成三十年一月六日の予定です。泣き、笑いありのとても面白いドラマですので、ぜひ皆様ご覧ください。



◆ 会員の声 ◆

郷土料理の逸品 どりょう料理 「ふすべ餅」を尋ねて



棚橋 保 (東京支部長)

(一) 話は少し遡るが、十年近く前にNHKの朝のテレビ番組に「ふるさとの郷土料理」を尋ねてという番組があった。案内役はNHKアナウンサー櫻井よう子さんと、曰く「私が全国の郷土料理を尋ね歩いた中で一番美味しかったのは、宮城県のどりょう料理の「ふすべ餅」だった」という話が出て来て驚いた。(二) その頃は、第二の人生に意気を感じていたいわゆる「団塊の世代」を相手に、午前、午後、晩とどりょう揃い踊りの普及活動で、首都圏を飛び回っていた頃で、どりょう料理が日本一美味という郷土料理という話に、いたく感激し、どうしても食べてみなければと思いを抱いていたが、今日まで実現しないまま十年経ってしまった。

(三) 最近の情報として、岩手県一関のもち文化に関連して「ふすべ餅」がテレビで紹介されたという資料を入手する事が出来た。そしてそれを手掛かりにして、宮城県栗原市の観光物産協会と連絡する事が出来た。十月三十日、紹介された宮城県栗原市、伊豆沼のほとり、明治三十六年に建てられた古民家で代々続く農家が営む「古民家岩松」に着いた。しかし「ふすべ餅」はやっていなかったため、また改めてという事になった。(四) 「ふすべ餅」の作り方は、どりょうを田んぼから採ってきて、数週間かけ泥をはかせ、「囲炉裏」に串刺しにし、カラカラに乾燥させ、搗りこぎで粉々にする。すりおろした大根、ゴボウを煮込んだ中に粉々にしたどりょうを入れ、味噌唐辛子等の調味料を加え、たつぶりの汁の中に餅を入れると体の芯まで温まる栄養満点の「ふすべ餅」が出来た。「ふすべ餅」とは「ふしべる」がなまった方言で、こがり焼く、燻すという意味。(五) 余談、長野県塩尻市の市民カルチャの教室で「ふすべ餅」の話をしたところ、岡山県倉敷市の実家で、祖母が「まかり」を食料にして、「ふすべ餅」と同じ作り方で食べた事がある。とてもおもしろかったという話を近藤敏子さんがし

てくれた。これにはまた驚いた。思うに、昔の人は身近にある食材をいかに無駄なく利用する工夫、知恵を持っていた。これは現在の飽食時代、私達がもう一度立ち返る食の原点を覚えてくれているように思い、貴重な体験をしたと思っている。(六) 終わりに、来年平成三十年秋、いよいよ今回尋ねた「古民家岩松」の岩松剛、せつ子ご夫妻のご好意協力を得て「ふすべ餅」を食べ、安来節どりょう揃い踊りと東北民謡との交流を「古民家岩松」で実現する方向性と段取りが見えてきた。今回の探案、視察が実現出来たのは、次の方々のご支援、ご協力の賜物と感謝申し上げます。同行してもらった東京支部事務局の斉藤和子さん、斉藤さんの甥の跡部賢二さん(跡部さんには自家用車を出して頂き、無事に目的を果たす事が出来ました)、栗原市観光物産協会の鈴木麻也さん、古民家の岩松ご夫妻。



古民家岩松 農家レストラン カフェ(コーヒー、紅茶)・食事・休憩

平成30年度より会費等の金額変更 (平成29年10月1日～)
◇会費: 4,000円 ※少年部会費および再入会費は変更なし
◇審査料 ※少年部は変更なし
3級: 1,500円
2級: 1,500円
1級: 1,800円
初段: 2,400円
二段: 3,000円
三段: 3,600円
准師範: 4,200円
師範: 7,000円
◇免状料
師範: 35,000円
大師範: 100,000円
准名人: 200,000円
名人: 350,000円
◇研修会費 ※平成31年度(平成30年10月1日～)
師範: 2,000円
大師範以上: 3,000円

事務局からのお知らせ
安来節のしおり(平成29年度版)に誤りがございました。追加、訂正してお詫びいたします。
【追加】東京支部 P165
◆三級 唄 横山信雄
●「わろてんか」ご案内
支部情報の中の記事にもございましたが、現在放送中の朝の連続テレビ小説「わろてんか」に安来節(女踊り)が登場します。
登場する放送日は、12月25日～1月6日の予定ですので、みなさまぜひともご覧ください。

地域伝統芸能大賞「地域振興賞」受賞
平成29年11月4日(土)に出雲市民会館で開催された「日本の祭りinしまね2017」において、安来節保存会が地域伝統芸能大賞「地域振興賞」を受賞し、高円宮妃久子殿下より保存会長へメダル等を授与して頂きました。
この賞は、多年にわたり、地域の民衆の生活の中で受け継がれ、当該地域固有の歴史、文化等を色濃く反映した伝統的な芸能及び民俗習慣(地域伝統芸能等)の活用を通じ、観光又は商工業の振興に顕著な貢献のあったものに対して授与されるものです。



安来節保存会関西支部設立35周年 記念発表会
1. 日時 平成30年2月17日(土)
2. 場所 大阪市此花区 梅花殿
NHK朝の連続ドラマ「わろてんか」に関西支部会員が12月25日より来年1月6日の予定で出演します。是非ご覧下さい!!

感動を呼ぶ 音色と響き 丹念な加工 調整 仕上げ
(有)仁木三味線
製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓
〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1
TEL 045(713)4319 FAX 045(741)4796
HP http://www.syamisen.com/